

職員による自己評価

A 環境・体制整備

- ・事業所の入り口前に階段があるが、階段が理由で不都合を感じたことや問題が発生したことはない。

B 業務改善

- ・前日までの出来事、本日の予測言動、事業所到着後の言動、送迎中の出来事等の1日の振り返りを行っている。
- ・業務前に引継ぎ等の必要な情報は共有できている。
- ・各児童の特性や対応方法、発達障害について学び機会も設けている。

C 適切な支援の提供

- ・学校、区役所、相談支援専門員、児童相談所等の方々と必要に応じて連携が取れている。
- ・利用者が来所する前後にミーティングで情報を共有し、支援において連携が取れている。

D 関係機関や保護者との連携

- ・学校の送迎時刻などに変更があった場合など、速やかに保護者から連絡をいただき対応できるようにしている。

E 保護者への説明責任・信頼関係

- ・安全上や防犯上等の理由から、地域住民の正体は行っていない。

F 非常対応

- ・緊急時に各自が冷静に役割を果たせるよう訓練を行っているが、訓練の頻度を増やし、新たな気づきや課題点をマニュアルに組み込み更新していくことができれば尚良い。

保護者による評価

A 環境・体制整備

- ・子どもたちが身体的に成長してきて、特に男子が多い日は手狭に見えるが、工夫してスペースを作っていると思う。
- ・業界として人手不足であることを感じている。

B 適切な支援の提供

- ・日々、色々な工作やイベントなどで保護者も子どもも満足している。
- ・びっくりするくらいいろいろな企画がある。
- ・障害がない子どもとの活動はないが、なくても特に問題ない。

C 保護者の説明等

- ・いつも連絡帳や送迎時に子どもの様子を詳しく教えて下さり有難い。
- ・アプリやLINEなどで方法に移行できれば良いと思う。
- ・父母会はなくても特に問題ない。
- ・月々の予定表に活動概要や行事予定が書かれている。

D 非常時等の対応

- ・定期的に訓練を行っている。

E 満足度

- ・いつも笑顔で帰宅するので楽しめていると思う。
- ・できるようになったことが多く感謝しています。
- ・課題点を見付け、すぐに対応してくれている。

事業所内での分析

【共通点】

- ・数年通所している利用者が、現在成長とともに体も大きくなり、例えばダンスなど体を動かす活動内容によってはスペースが手狭に感じるが、グループごとに取り組むなどの工夫をし、問題なく行うことが出来ている。
- ・プログラムに関しては、趣旨を設定し、軽度・重度の両方に対応できるよう工夫されている。
- ・保護者会等については、早急な対応は必要ではない。
- ・指導員のスキルアップに繋がる研修の定期的な実施が必要。
- ・保護者との連絡ツールの見直しと検討が必要。
- ・非常時対応のマニュアルを基に定期的な訓練の報告が必要。

【相違点】

- ・大きな相違点は今回見受けられなかった。
- ・指導員によって対応に差がある。
- ・非常時等の対応について、避難訓練等を実施しているが、保護者が認識していないケースがあった。

分析・検討してみて…

事業所の強み

- ・プログラムとイベント内容の充実
- ・課題点の発見力と対応策の幅の広さ
- ・強みの発見といかし方
- ・関連機関との連携
- ・保護者とのコミュニケーション量
- ・利用者や保護者との信頼関係
- ・職員間の情報共有と共通指導の徹底
- ・アクシデントに対しての早急な対応と翌日からの具体案の提案と実施

事業所の改善点

- ・スペースを確保するために、活動内容に応じさらなる工夫をしていく。手狭に感じないよう日々の整理整頓や季節ごとの備品移動を心掛ける。
- ・事業所内での研修を定期的実施し、スキルアップを図る。
- ・非常災害時における訓練の回数を増やし、その都度、保護者に避難方法や訓練内容の説明と報告(相談)を徹底する。

事業所の改善への取り組み

- ・利用者の年齢と共に身長・体格・精神面も変化してきており、それに伴い個々の課題や支援内容等も変化してきている。物理的には、必要なスペースを確保できるよう、臨機応変に整理整頓を心掛けていく。心理的には、各年齢や特性に合わせた療育を提供できるよう考案していく。
- ・プログラムで使用した季節的な物品は、定期的に本部へ移動し、必要最小限の物品の保管とし、スペースの確保を意識する。
- ・日々の療育方針や課題点への指導方法の周知を徹底する。
- ・情報共有や連携の大切さを再確認し、引き続き業務の質の維持に努める

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・どの指導員も、子どもたちそれぞれの特性を深く理解し、その都度瞬時に判断し、適切な支援をスムーズに行うことができるよう、今まで以上に日々の振り返りと学び、具体的な専門的アドバイス、スキルアップのための研修時間を確保していきたいと感じた。
- ・細かな情報共有(報告・連絡・相談)を行うことで質の高い支援を提供できるため、利用者の成長、課題解決、そして保護者の満足感に繋がるよう、指導員間のチーム力をさらに上げていきたいと感じた。そのために、指導員のモチベーションが上がるよう目標を明確にし、達成感を得られるよう工夫していきたい。
- ・非常時への備えに対する意識をより高く維持し、具体的な状況を想定した訓練の実施と報告を行うことの必要性を感じた。

事業所名 スイミーフレンズ石川町

担当者 三分一 美紀

職員による自己評価

A環境面

- ・今現在は問題ないが、今後の受け入れ児童によってはよりバリアフリー化の配慮が必要になると考えられる。

B児童への支援内容

- ・支援終了時の振り返りをスタッフ全員で行うことが難しい日もあるが、その分支援前の打ち合わせを徹底することで情報共有が行えている。

C関係機関との連携

- ・学校や関係機関との連携は問題なく行えているので、継続していきたい

D保護者への説明責任・信頼関係

- ・保護者とのコミュニケーションはしっかりと取れている。

E非常対応

- ・避難訓練の頻度を増やし、万が一の際により適切に行動できるようにしていきたい。
- ・各種マニュアルはあるが、スタッフ全員が活用できているとはいえない。

保護者による評価

A環境面

- ・体が成長してきたから多少狭く感じるが、目が行き届いているのは良いと思う。

B児童への支援内容

- ・特に学校がお休みの日に楽しそうなイベントをたくさん企画されているので、たくさんの経験をさせてもらえてありがたい。

C事業所からの情報発信

- ・保護者が参加できる発表会を開催していただき、子どもがお友達と楽しく過ごしている様子を見ることができた。
- ・相談をすると必ずアドバイスをくれ、何かあってもしっかり対応の報告をくれるので心強い。

D非常対応

- ・避難訓練の詳しい実施内容を知りたい。

E満足度

- ・我が家にとって、無くてはならない場所になっている。
- ・子どもの特性やタイミングにあわせた支援を行ってくれるので安心してお願いしている。

事業所内での分析

【共通点】

- ・避難訓練やマニュアルの周知等、非常時の対応に課題がある
- ・保護者とのコミュニケーションはしっかりとれている

【相違点】

- ・大きい相違点は特に見受けられない

分析・検討してみて…

事業所の強み

- プログラムの立案、企画の充実
- 学校や関係機関とのスムーズな連携
- 保護者との信頼関係

事業所の改善点

- 避難訓練の充実
- マニュアルの周知
- 指導訓練室のスペース確保

事業所の改善への取り組み

- 避難訓練の実施内容を充実し、その内容を保護者に周知する。
- 指導訓練室のスペースに見合った利用人数を見直す。
- ミーティングを使って各種マニュアルを周知する。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- 連絡帳や送迎時の申し送り、電話などを通して保護者の皆様と情報共有させていただいていることで、お子さまへの支援がより円滑に行えて信頼関係を築いていけていることに感謝しています。また、今年度初めて行った保護者の方にご参加いただいたクリスマス発表会について、事業所でのお子さまの様子をご覧いただく良い機会になったとのご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございます。今後は緊急時の対応を充実させ、より安心してご利用いただける事業所づくりに取り組んでまいります。

事業所名 スイミーフレンズ滝頭

担当者 遠藤 麻樹

職員による自己評価

A環境面

- ・スペースやバリアフリーに関しては、一定の基準を満たしている

B児童への支援内容

- ・プログラムは幅広いものが提供されていると感じる

C関係機関との連携

- ・ケース会議等には参加しているが、より一層スムーズな連携を図っていく必要がある

D保護者への説明責任・信頼関係

- ・保護者とは一定の信頼関係は築けているが、より良い関係性が築けるようやり取りをしていく必要がある

E非常対応

- ・マニュアル類の周知共有はスタッフの全体ミーティングで定期的実施されている
- ・身体拘束、虐待防止等はミーティングでチェックリストを用いて確認をしている
- ・BCP についてのミーティング、避難訓練等はもっと行うべき
- ・マニュアル類は活用がされていない

保護者による評価

A環境面

- ・広くて明るい印象を受ける

B児童への支援内容

- ・子どもが毎日楽しんで参加している
- ・送迎の際や普段の対応により子ども達一人ひとりと向き合って接していると感じる

C事業所からの情報発信

- ・送迎時などに丁寧な説明があり安心して
- ・いる
- ・父母会がなく他の親御さんとの交流が欲しい（感染症などの関係で難しいかも知れないが）

D非常対応

- ・避難訓練などの実施について情報が少ない

事業所内での分析

【共通点】

- ・スペースやバリアフリーに関しては、一定の基準を満たしている
- ・プログラムに関して保護者からの評価を得ている
- ・利用している児童が楽しみに参加している
- ・マニュアルの周知や避難訓練の情報発信等、非常時の対応全般を意識して定期的な周知を行っていく

【相違点】

- ・大きな相違点は今回見受けられなかった

分析・検討してみて…

事業所の強み

- 利用している児童が楽しみに参加できるような活動プログラムの内容
- 子ども一人ひとりに対しての丁寧な対応を心掛けているところ
- 保護者との信頼関係

事業所の改善点

- 非常災害時における避難方法や対応の周知の徹底
- マニュアル類の定期的な周知と、それに沿った対応の共有
- 職員の育成、専門性の獲得

事業所の改善への取り組み

- マニュアル等を職員に周知をし、対応を統一化していくとともに外部研修などへの参加も含めた人材育成も意識的に行っており、職員一人ひとりの専門性を深めていく
- 避難訓練については様々な状況を想定し、どんな職員でも対応できるようにしていく。実行した際は保護者への周知も発信していく

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- 保護者の方が普段見えない事業所の様子を、いかに発信していくかという部分の重要性を感じました。
- 職員一人ひとりが自信を持ってお子さんに接する事が出来るように、通常のミーティングや全スタッフミーティングでの施設内研修などを通じて専門性を深めていき、より良い支援に繋げていきたいと思えます。

事業所名 スイミーフレンズ本牧

担当者 経塚 治

職員による自己評価

A 環境面

- 環境、体制両面において特に問題はないと感じる

B 児童への支援内容

- プログラムをあえて曜日固定しているが、天候等によって臨機応変に内容を変更(別曜日と交換)してもいいのではないかと感じる
- 指導の基準を職員間でズレのないようにする必要がある

C 関係機関との連携

- 関係機関との連携について、学校からの申し送りに対してこちらから聞く積極性が必要

D 保護者への説明責任・信頼関係

- 送り時に職員による保護者への伝え方に差が出てしまうのをなくしたい

E 非常対応

- 避難訓練の状況設定や頻度を増やし、有事の際にしっかりと連携が取れるようにする

保護者による評価

A 環境・体制面

- スペースは十分確保され、清潔を保っている
- 職員の配置数や専門性は概ね適切である
- 設備面の問題はないと思う

B 児童への支援内容

- 色々なプログラムがあり楽しそう

C 事業所からの情報発信、保護者への説明

- その日の様子を伝えてくれるが、内容については職員によって差があると感じる
- トラブル等があった際に、迅速に説明はしてくれるが意識して改善されているとは思えない場面がある

- 課題についての話をする場がもう少し増えると嬉しい

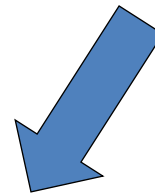
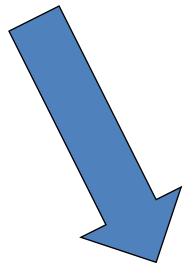
- 毎月の便りの内容をもう少し増やしてほしい

D 非常対応

- 避難訓練を色々な設定で行ってほしい

E 満足度

- 子どもが楽しみに通っている
- 丁寧に子どもの様子を見てくれ感謝している



事業所内での分析

【共通点】

- プログラムについては内容に概ね肯定的
- 保護者とのやりとりの中で、職員によって伝える内容に差が出ている
- 避難訓練の想定(設定)を増やし、実施する

【相違点】

- 大きな相違点は特に見受けられない

分析・検討してみて…

事業所の強み

- 幅広いプログラムの実施
- 安全が確保できる職員体制
- 清潔な設備、環境

事業所の改善点

- 避難訓練の実施回数と想定パターン増
- 保護者への伝え方、話し方
伝えたいことの共有や明確化

事業所の改善への取り組み

- 避難訓練の発生状況を幅広く想定し、どのような災害が来ても落ち着いて対応できるようにする
- 保護者へのその日の様子の伝え方や内容を確認し合い、どの職員でも十分な内容が伝えられるようにする
- いただいたご意見に対して改善点を明確にし、保護者へ伝えるようにする
- 事業所内研修を通じて、児童一人ひとりの特性への理解を深め、対応の仕方を共有する

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- 療育内容やプログラムについての保護者からのアンケート結果は概ね良いと捉えることはできるが、その内容を保護者に伝えるという点ではスタッフによって差があるという課題が浮き彫りになった。
職員間での情報共有や事業所として大事にしている部分を再認識し、職員間とも保護者ともコミュニケーションを増やして意識や理念、対応や療育方法の共有化を図っていく必要がある。
職員の自己肯定感を高められるような事業所内研修を企画、実施し、自身につなげていきたい。

事業所名 スイミーフレンズ南区役所前

担当者 川崎 孝彬